

メインテーマ：歯科衛生士のためのマイクロスコープ ホップ・ステップ・ジャンプ
『【ホップ】マイクロスコープを通して見た歯科衛生士の仕事』



ホワイト歯科グループ熊本 安田奈央

小さなものを大きく見る、拡大という操作は歯科衛生士にとっても大きなメリットがあります。しかしながら、顕微鏡を歯科衛生士の業務に導入しようとする一年生として修得することは多く、またその壁はかなり高いものです。

ここでは①ニューカマーとしてトレーニングのこと②苦勞すること③業務内容についてご紹介したいと思います。

トレーニングは顕微鏡を自身の業務に取り入れるためとドクターの診療補助が遅滞なく行われるために行われます。

前者では顕微鏡下での空間認識を確立することから始まります。まず、顕微鏡をのぞいて視野の中の一点を探針で押すことすらできないのです。拡大下で自分の手指を思うように動かすことが困難で自分では押している感覚が力なくふわふわした感覚となり実視野と処置領域とが頭の中で confuse するのです。これがミラー像となるとさらに大変でした。顕微鏡の視野は限られており、アシスト時には視野外での器具の動きに注意しなくてはなりません。ドクターは視野を注視しアシストは全体を見渡し、把握することが必要です。

顕微鏡を覗いている時間が増えることが顕微鏡の活用範囲の拡大につながると思います。

演者 安田奈央 略歴

平成 16 年 3 月 熊本歯科技術専門学校歯科衛生士科卒業

熊本県内の歯科医院勤務を経て

平成 24 年 6 月 ホワイト歯科医院勤務

日本顕微鏡歯科学会 準会員

Pacific Endodontic Research Foundation JAPAN